

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6847100号
(P6847100)

(45) 発行日 令和3年3月24日(2021.3.24)

(24) 登録日 令和3年3月4日(2021.3.4)

(51) Int.Cl. F 1 12/20 (2006.01)
F 1 6 B 12/20 B

請求項の数 5 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2018-517213 (P2018-517213)	(73) 特許権者	516162951 レオナルド エス. アール. エル. イタリア国 22060 フィジーノ セ レンツァ シーオー, ヴィア レオナルデ イ 8
(86) (22) 出願日	平成28年10月5日 (2016.10.5)	(74) 代理人	110002468 特許業務法人後藤特許事務所
(65) 公表番号	特表2018-535367 (P2018-535367A)	(72) 発明者	カッタネオ カルロ イタリア国 22060 フィジーノ セ レンツァ シーオー, ヴィア レオナルド ダ ヴィンチ 5
(43) 公表日	平成30年11月29日 (2018.11.29)		
(86) 国際出願番号	PCT/EP2016/073787		
(87) 国際公開番号	W02017/060298		
(87) 国際公開日	平成29年4月13日 (2017.4.13)		
審査請求日	令和1年8月30日 (2019.8.30)		
(31) 優先権主張番号	102015000059878		
(32) 優先日	平成27年10月9日 (2015.10.9)		
(33) 優先権主張国・地域又は機関	イタリア (IT)		
		審査官	鵜飼 博人
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 家具及び家財道具の部位に幅広いアクセス性を有する連結具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第二パネル(12)の縁(B)が第一パネル(11)の表面(S)の締め付け位置に当接するように、接近方向(d)に互いに向かって移動された状態で、前記第一パネル(11)及び前記第二パネル(12)を連結する、家具の部位の連結に用いられる連結具であって、

前記連結具は、前記第一パネル(11)に組み付けられる固定グループ(GB)及び接続グループ(GC)から構成され、

前記固定グループ(GB)は、前記第一パネル(11)の板厚(SP)に含まれるシート部(S1)内に挿入され、

前記のシート部(S1)は、前記接近方向(d)に垂直で、縁(B1)から前記第一パネル(11)の内部に向かって延びる縦軸(X)を有し、

前記固定グループ(GB)は、前記第一パネル(11)内に含まれる少なくとも前記シート部(S1)の側から作動可能な連結具であって、

前記固定グループ(GB)は、前記第一パネル(11)の第一穴部(36)に位置するケース(39、40)内に収容され、ピン接続グループ(33)に係合するのに適したグラブねじ(35)の移動を制御する歯付クラウン(43)を備え、

前記ケースは、相互に接合でき、それぞれ少なくとも1つの前記歯付クラウン(43)の作動に用いる穴(42、42')を含む一対のハーフシェル(39、40)を備え、前記少なくとも1つの穴(42、42')は前記2つのハーフシェル(39、40)上で整

10

20

列し、前記第一穴部（３６）と交差する前記第一パネル（１１）の追加的な穴部（３７）と整列し、

前記連結具は、前記第一パネル（１１）に形成される前記追加的な穴部（３７）から作動される前記固定グループ（ＧＢ）を備え、前記接続グループ（ＧＣ）は、前記ピン接続グループであり、前記第一パネル（１１）に作られる第二穴部（３８）から前記第一パネル（１１）と接合でき、

前記追加的な穴部（３７）と、前記第二穴部（３８）は、相互に離隔し、水平である連結具。

【請求項２】

請求項１に記載の連結具であって、

前記追加的な穴部（３７）と対応して、前記第一パネル（１１）の反対側の表面において開口する追加的な穴（Ｆ）が前記追加的な穴部（３７）と整列可能である連結具。

【請求項３】

請求項１に記載の連結具であって、

前記歯付クラウン（４３）は、ねじ付スクリュ（４４）内に延び、次に前記グラブねじ（３５）の内部で軸方向を向くねじ付穴（４６）に位置付けられることを特徴とする連結具。

【請求項４】

請求項１乃至３のいずれか１つに記載の連結具であって、

前記ピン接続グループは、前記第二パネル（１２）の穴部（３０）に置かれた雌ねじ付ブッシュ（３１）内のねじ付端部（３２）内に位置付けられるピン（３３）を備え、

前記ピン（３３）は、その突出部分において、前記グラブねじ（３５）のためのハウジング（３４）を備えることを特徴とする連結具。

【請求項５】

請求項１に記載の連結具であって、

前記固定グループ（ＧＢ）は、前記固定グループ（ＧＢ）が装着される前記パネル（１１、１２）の前記板厚（ＳＰ）に含まれる前記シート部（Ｓ１）内に挿入され、

前記シート部（Ｓ１）は、前記接近方向（ｄ）に垂直な軸（Ｘ）に従って縁（Ｂ１）から前記パネル（１１、１２）の内部に向かって延びることを特徴とする連結具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、家具及び家財道具の部位に幅広いアクセス性を有する連結具に関する。

【０００２】

例えば、家具の肩部と基台の間、あるいは任意の棚の２つのパネル間における連結は、現在、家具及び家財道具の分野において、様々な手順を使用し、異なる解決手段によって達成される。

【０００３】

例えば、特許ＵＳ７４９４２９７、ＵＳ５５６７０８１、ＵＳ６５４７４７７及びＵＳ４４０８９２３から、これらの解決手段例が既知となっている。

【０００４】

特に家具及び／又は家財道具の支持部において、連結を達成させる要素を位置付けるために必要なシート部又は穴部の閉鎖要素が、これらの既知の解決手段では必要となるため、これらの既知の解決手段は、一定の複雑さを有し、どのような場合でも一定の可視性を有する。

【０００５】

さらにより分かりやすくすると、図１、２及び３は、例えば、家具の肩部と基台、あるいは任意の棚における家具及び家財道具の部位の連結具の既知の解決手段を示している。

【０００６】

図示される既知の解決手段では、家具の肩部１１及び基台１２の両者に穴部が設けられ

10

20

30

40

50

ていなくてはならない。肩部 1 1 と基台 1 2 との接続部において、両者とも部分的に示されている。肩部 1 1 は、実際に、水平止まり穴部 1 3 を有し、基台 1 2 にいたっては 2 重穴部 1 4、1 5 を有する。より具体的には、肩部 1 1 の穴部 1 3 と整列することとなる水平穴部 1 4、及び、例えばグラブねじ 1 6 等の固定要素を挿入するために基台 1 2 の上面に形成され第一穴部 1 4 と交差する垂直穴部 1 5 について、両方の穴部とも止まり穴である。

【 0 0 0 7 】

前記の穴部 1 3 は肩部 1 1 に垂直な軸 A を有する。

【 0 0 0 8 】

この既知の連結具は、肩部 1 1 の穴部 1 3 内に位置付けられる雌ねじ付ブッシュ 1 9 の内側に第一ねじ付端部 1 8 を有するピン 1 7 を位置づける。ピン 1 7 は、他端部 2 0 にグラブねじ 1 6 の端部のためのハウジング 2 1 を含む。

10

【 0 0 0 9 】

基台 1 2 の垂直穴部 1 5 内にブッシュ 2 2 が収容され、ブッシュ 2 2 は、ピン 1 7 の突出端部 2 0 を受けるための水平通過穴 2 3 及びグラブねじ 1 6 を受ける垂直ねじ付通過穴 2 4 を備える。

【 0 0 1 0 】

既知の連結具を形成し、肩部及び基台を図 1 の矢印 F に従って並列させる前記要素をこのように位置決めすることで、基台 1 2 の穴部 1 4 及びブッシュ 2 2 内にピン 1 7 が挿入されることにより図 2 の接合が得られる。

20

【 0 0 1 1 】

そして、矢印 2 6 に従って工具 2 5 でグラブねじ 1 6 がブッシュ 2 2 内にねじ込まれ、それによってグラブねじ 1 6 の先端部が、ピン 1 7 の自由端 2 0 に設けられるハウジング 2 1 に位置するようになる。

【 0 0 1 2 】

グラブねじ 1 6 を締めると、基台 1 2 を肩部 1 1 に対して押し付け、図 3 に示される最終的な安定した位置が形成される。

【 0 0 1 3 】

この既知の解決手段では、固定グループは基台内に存在し、基台に対して並びに肩部と基台との間における移動又は接近方向及び締め付けに対して垂直に配置される。固定グループと協働するピンのみが、肩部又はサイドパネルの板厚内に設けられる。

30

【 0 0 1 4 】

前記の図 3 は、一連の矢印によって、家具の肩部 1 1 と基台 1 2 との間及び連結具の部分間の遊びにおける力の体系を示す。

【 0 0 1 5 】

この最終的な位置は、基台 1 2 の上面において、どのように穴部 1 5 の端部が存在するかも表し、通常は閉止キャップ（不図示）によって覆われている。

【 0 0 1 6 】

前記の穴部及び対応するキャップは、連結具の可視部分を形成する。

【 0 0 1 7 】

40

第一に、キャップは存在しているものの、どのように連結が成されているかが見えるため、当該部分は審美的に正当な外観ではない。さらに、基台の表面と一直線にすることが困難であるキャップ自体は、いかなる物体が挿入されても障害物となり、たとえ最小であったとしても、基台の上面に突起部を形成する。

【 0 0 1 8 】

基台に少なくとも 2 つの穴が存在し、その上、交差し合うことは、荷重を支えなくてはならない基台自体の弱化を招き、損傷の原因となりうる。

【 0 0 1 9 】

さらに、例えば、基台と対応して位置付けられる引き出し等の取り外せない邪魔な物体が存在する場合、固定ユニットへのアクセス性に一定の困難性が認められる。

50

【 0 0 2 0 】

W O 2 0 0 8 / 0 7 6 0 8 9 A 2 は、パネル等の構造要素を容易に組立て及び解体するためのスクリュアセンブリを接続するモジュラ構造の実施形態について言及している。

【 0 0 2 1 】

D E 2 9 5 0 5 7 5 2 U 1 は、平らな要素のための連結システムに関する。

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 2 2 】

本発明の全般的な目的は、上記で示唆された既知の技術の欠点を解決できる肩部と基台等の家具及び家財道具の部位間の連結具を、極めて単純で、安価で、特に機能的な方法で提供することにある。

10

【 0 0 2 3 】

本発明のさらなる目的は、その部位における観察者からの視認性を最小限とすることにより高い審美的価値を有し、それに加えて、基台又は棚の近くに取り外すことができない邪魔な物体が位置する場合にも、少なくとも2つの側面からアクセス可能な、肩部と基台等の家具及び家財道具の部位間における連結具を提供することにある。

【 0 0 2 4 】

本発明の別の目的は、幅広いアクセス性を有していても、パネルを弱体化させることなく単独のパネルの板厚内に含まれることが可能な肩部と基台等の家具及び家財道具の部位間における連結具を提供することにある。

20

【 0 0 2 5 】

本発明のさらに別の利点としては、いかなる場合においても、容易に取り外しできない邪魔な物体が存在する中で、器具が通常、操作される側面から連結具へのアクセス性があることである。

【 0 0 2 6 】

本発明の構造的及び機能的特徴及び既知の技術に対する本発明の利点は、同発明の実施形態例を示す同封の模式図面を参照することで、以下の説明によりさらに明らかとなる。図面は以下の通りである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 7 】

30

【 図 1 】 図 1 は、例えば、家具の肩部と基台又は場合によっては棚との間等の、家具及び家財道具の部位の既知の連結具の部位が相互に離隔して示される断面図である。

【 図 2 】 図 2 は、図 1 の既知の器具の2つの断面図であって、図 2 は、前記の部位が相互に対して並列され、部分的に相互に挿入されており、締め付けられている。

【 図 3 】 図 3 は、図 1 の既知の器具の2つの断面図であって、図 3 は、前記の部位が相互に完全に挿入され、締め付けられている。

【 図 4 】 図 4 は、例えば、前記の部位が相互に離隔する実施形態における本発明による家具の肩部と基台又は場合によっては棚との間等の、家具及び家財道具の部位の連結具の部位が相互に離隔して示される断面図である。

【 図 5 】 図 5 は、図 4 の器具の断面図であって、前記の部位が相互に並列され、部分的に挿入されている。

40

【 図 6 】 図 6 は、図 4 の器具の断面図であって、前記の部位が相互に完全に挿入され、締め付けられている。

【 図 7 】 図 7 は、図 4 乃至 6 で例として示される、本発明の連結具で使用される固定グループ及び接続グループの例を、部分的に分解した斜視図である。

【 図 8 】 図 8 は、図 4 乃至 6 で例として示される、本発明の連結具で使用される固定グループ及び接続グループの例を、部分的に分解した斜視図である。

【 図 9 】 図 9 は、図 4 乃至 6 で例として示される、本発明の連結具で使用される固定グループ及び接続グループの例を、部分的に分解した斜視図である。

【 図 1 0 】 図 1 0 は、本発明による器具の適用例を示す。

50

【 0 0 2 8 】

最初に、図 4、5 及び 6 を参照する。図 4、5 及び 6 は、本発明による家具及び家財道具の部位の連結具の第 1 実施形態を示す。例では、連結具は、図面では部分的に表されている第 1 パネル 1 1、例えば家具の肩部 1 1 と、第 2 パネル 1 2、例えば基台 1 2 又は場合によってはパネル若しくは棚とを接続して連結しなくてはならない。例で示されるように、肩部 1 1 と基台又はパネル 1 2 とは、概して相互に垂直であるが、相互に対して傾いていてもよい。

【 0 0 2 9 】

基台 1 2 は、その端部の一方に水平止まり穴部 3 0 の形状のシート部 S 2 を含む。水平止まり穴部 3 0 内には、ピン 3 3 のねじ付端部 3 2 を受けるために雌ねじ付ブッシュ 3 1 が位置付けられる。

10

【 0 0 3 0 】

ピン 3 3 は、その突出部分に、固定グラブねじ 3 5 の先端部のためのハウジング 3 4 を設けている。

【 0 0 3 1 】

前記のピン 3 3 は、後述でさらに詳細に説明されるが、前記の肩部 1 1 と前記の基台 1 2 とを安定的に相互接続させるために堅固に固定される接続グループ G C を定義する。

【 0 0 3 2 】

肩部 1 1 には、実質的に細長い外形の固定グループ G B のためのシート部 S 1 が、相互に離隔する第 1 及び第 2 水平止まり穴部 3 7 及び 3 8 と交差する垂直止まり穴部 3 6 としての形状で設けられる。

20

【 0 0 3 3 】

前記のシート部 S 1 は、外周縁 B 1 から前記の肩部又はパネル 1 1 の内側に向かって特徴的に延びる。

【 0 0 3 4 】

一対のハーフシェル 3 9、4 0 は、垂直穴部 3 6 に収容され、互いに接合されることが可能で、筒状ケースを形成する。筒状ケースの内側では、スクリュドライバ 5 5 (部分的にのみ示す)の星型先端部 5 4 で外側から制御できる固定グループ G B の歯付クラウン 4 3 によってグラブねじ 3 5 が摺動される。

【 0 0 3 5 】

30

ねじ付スクリュ 4 4 の頭部に形成される前記の歯付クラウン 4 3 は、2つのハーフシェル 3 9 及び 4 0 が互いに接合した際に少なくとも1つのハーフシェル 4 0 に作られるシート部 4 5 で回転できる。2つのハーフシェル 3 9、4 0 の第一 3 9 に形成される穴 4 2 は、肩部 1 1 の第一水平穴部 3 7 と整列し、これから肩部又はパネル 1 1 の第 1 の側から歯付クラウン 4 3 に作用することができる。

【 0 0 3 6 】

ねじ付スクリュ 4 4 は、次に、ねじ付軸穴 4 6 及びグラブねじ 3 5 内側に位置付けられる。

【 0 0 3 7 】

本発明によると、さらに、第二穴 4 2 ' が、2つのハーフシェル 3 9、4 0 の第二 4 0 に形成され、また、肩部 1 1 の第一水平穴部 3 7 と整列する。このようにして、2つのハーフシェル 3 9、4 0 上で整列して配置され、肩部 1 1 の第一水平穴部 3 7 と整列する少なくとも1つの穴 4 2、4 2 ' を各ハーフシェル 3 9、4 0 は含む。

40

【 0 0 3 8 】

そのため、この第二穴 4 2 ' から通過、すなわち、肩部 1 1 の通常使用される上記の第一側面とは異なる側面から通過して、歯付クラウン 4 3 に作用することができる。

【 0 0 3 9 】

後述でさらに詳細に説明されるが、コンポーネント 3 5、4 3、4 4、4 6 は、ピン 3 3 により構成される上記接続グループ G C への作用に適した固定グループ G B を主に定義する。

50

【 0 0 4 0 】

スクリュドライバ 5 5 の星型先端部 5 4 は、肩部 1 1 の第一穴部 3 7 を通って、ハーフシェル 3 9 の穴 4 2 から歯付クラウン 4 3 に挿入されることに適しており、このように歯付クラウン 4 3 と接合して、スクリュドライバ 5 5 を回転させる。

【 0 0 4 1 】

スクリュドライバ 5 5 の回転は、次にねじ付スクリュ 4 4 の頭部の歯付クラウン 4 3 を回転させる。ねじ付スクリュ 4 4 の回転によって、グラブねじ 3 5 は下向きに移動せざるを得なくなる。

【 0 0 4 2 】

こうして、本実施形態では、肩部 1 1 の細長い垂直穴部 3 6 の形状のシート部 S 1 の内側に挿入される固定グループ G B (3 5 、 4 3 、 4 4 、 4 6) が、いかに本発明の連結具によって原則的に備えられるかがわかる。基台 1 2 のシート部 S 2 の内側に位置し、基台 1 2 自体の側に形成される水平穴部 3 0 から延びるピン接続グループ G C 3 3 が固定されるように固定グループ G B (3 5 、 4 3 、 4 4 、 4 6) は作用する。より一般的には、本発明によると、望ましくは、肩部又はパネルの板厚 S P 内に完全に含まれるシート部 S 1 の内側に固定グループ G B が挿入され、前記のシート部 S 1 又は穴部 3 6 の縦軸 X は、基台 1 2 の肩部又はパネル 1 1 への接近方向 d 及び締め付けに対し垂直に延びる。

【 0 0 4 3 】

例に戻ると、図 4 に示されるように、本発明による連結具の 2 つの部位は、2 つのハーフシェル 3 9 及び 4 0 を肩部 1 1 の穴部 3 6 にセットし、ピン 3 3 を基台 1 2 の穴部 3 0 にセットすることで、まず位置付けられる。

【 0 0 4 4 】

これを可能にするには、グラブねじ 3 5 を、ねじ付穴 4 6 に挿入されて歯付クラウン 4 3 を含む関連ねじ付スクリュ 4 4 に予め接合する (図 9 に示す) 。そして、これらの要素は、図 8 に示されるように、2 つのハーフシェル 3 9 及び 4 0 内に位置付けられ、同ハーフシェル 3 9 及び 4 0 を閉じることで接合は達成される。

【 0 0 4 5 】

前記の接合は、ハーフシェル 3 9 又は 4 0 から突出し、他方のハーフシェル 4 0 又は 3 9 に特別に形成されるシート部 7 1 に挿入してバチンと留めること (スナップイン) に適したピン 7 0 の存在により容易になっている。

【 0 0 4 6 】

図 7 は、関連要素がハーフシェル 3 9 、 4 0 内に挿入されて、いかにハーフシェル 3 9 、 4 0 の組立ての完了が達成されるかを示す。

【 0 0 4 7 】

そして、基台 1 2 の縁 B が肩部 1 1 の表面 S に向かって移動し、ピン 3 3 の突出部分が肩部 1 1 の第二水平穴部 3 8 に挿入され、その後 2 つのハーフシェル 3 9 及び 4 0 に形成される 2 つの整列する穴部 7 2 内に挿入される。

【 0 0 4 8 】

すでに明記されているが、スクリュドライバ 5 5 の先端部 5 4 が、続いて、肩部 1 1 の第一穴部 3 7 を通過し、ハーフシェル 3 9 の穴 4 2 を通って、挿入され、それによって歯付クラウン 4 3 と係合する。ねじ付スクリュ 4 4 の頭部の歯付クラウン 4 3 の回転によって、グラブねじ 3 5 は下向きに移動せざるを得なくなる。このために、グラブねじ 3 5 は回転に抗する固定手段 3 5 A を備え、これによりグラブねじ自体 3 5 の並進移動を可能にし、回転を防止する。手段 3 5 A は、例えば、少なくとも 1 つのハーフシェル 3 9 、 4 0 の対応するシート部 3 5 B の内側で接合する放射状突起部からなることができる。

【 0 0 4 9 】

グラブねじ 3 5 の先端部は、ピン 3 3 のハウジング 3 4 に係合し、図 6 に示されるように、基台 1 2 をシート部 S 1 又は穴部 3 6 の縦軸 x に垂直な方向 d に移動させ、肩部 1 1 と基台 1 2 との間を締め付ける。図 6 は一連の矢印によって、家具の肩部 1 1 と基台 1 2 との間及び連結具の部位間の遊びにおける力の体系を示している。

【 0 0 5 0 】

図 1 0 は、アクセスが困難な他の場合において、本発明の連結具がいかに好適に使用されるかを示す。

【 0 0 5 1 】

この問題は、例えば、中央肩部 1 1 の一方の側面に、肩部 1 1 の壁部へのアクセスを妨げる一連の引き出し C が並列する家具 M で発生し得る。この場合、連結具の位置付け及び使用は非常に困難である。

【 0 0 5 2 】

そのため、本発明は、2つのハーフシェル 3 9、4 0 のうちの第二 4 0 に形成される穴 4 2 ' と対応する穴 F を肩部に作ることを可能とする。このようにして、この穴 F から歯付クラウン 4 3 に作用することができ、それから肩部 1 1 の第一水平穴部 3 7 と整列する穴 4 2 ' を通って、上記と同様に連結具を固定する。これは全て、図 4 乃至 6 に示されていることに対応して行われる。

10

【 0 0 5 3 】

そのため、第一に、本発明によって、器具の視認性に関連する問題は好適に解決されていることが認められる。家具の肩部に動作領域を設立することは、審美的に正当な外観を作り出す。

【 0 0 5 4 】

さらに、家具の基台は穴部を一切有しておらず、穴部に位置付けられる場合があるキャップは、家具の基台上に載っているものと干渉することがない。

20

【 0 0 5 5 】

このようにして、何か物体を挿入するための障害物が基台上にないので、基台の上面に関しては、最小のものでさえも突起部は一切排除されている。

【 0 0 5 6 】

既知の技術による基台上の穴部に対し、肩部に作られる穴部は、観察者にはっきりと見えないため、審美的な価値が高い。

【 0 0 5 7 】

さらに、基台で相互に交差する穴を排除することで、基台自体に起こり得る弱化を排除し、それによって、基台の損傷を起こし得る原因の危険性なく高い荷重を支えることができる。

30

【 0 0 5 8 】

最後に、すでに明記され、図 1 0 で示されているように、器具のハーフシェル 4 0 の第二穴部 4 2 ' の存在のおかげで、連結具は通常の側面（図 4、5 及び 6）から異なる側面からもアクセス可能である。

【 0 0 5 9 】

本発明の連結具を製造する構造の形態は、また、材料及び組立ての方法も、図中において純粹に例示され、非限定的な目的で示されたものとは自然に異なることができる。

【 0 0 6 0 】

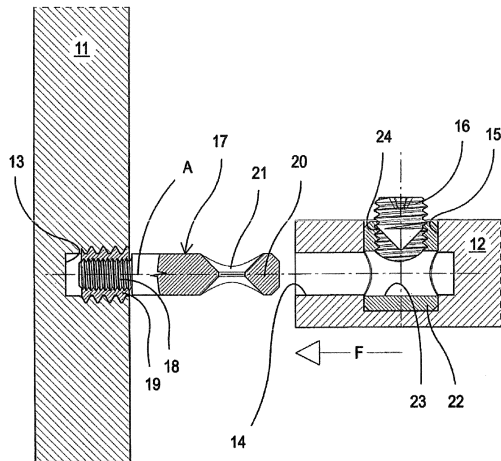
明細書のプリアンブルに記述された目的は実現された。

【 0 0 6 1 】

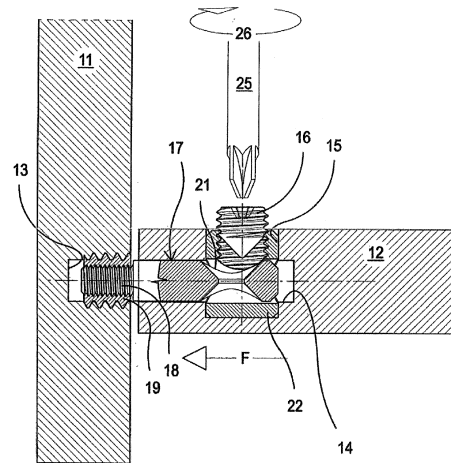
本発明の保護適用範囲は同封の請求項により定義される。

40

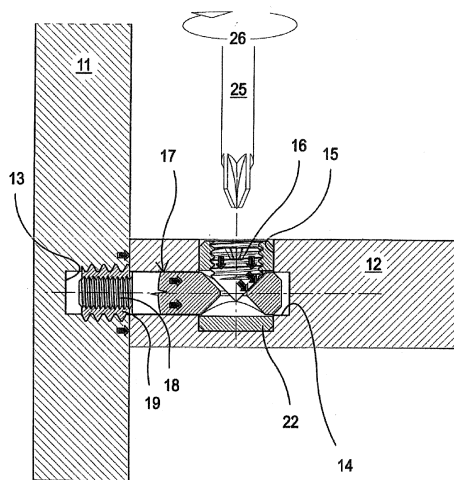
【図 1】



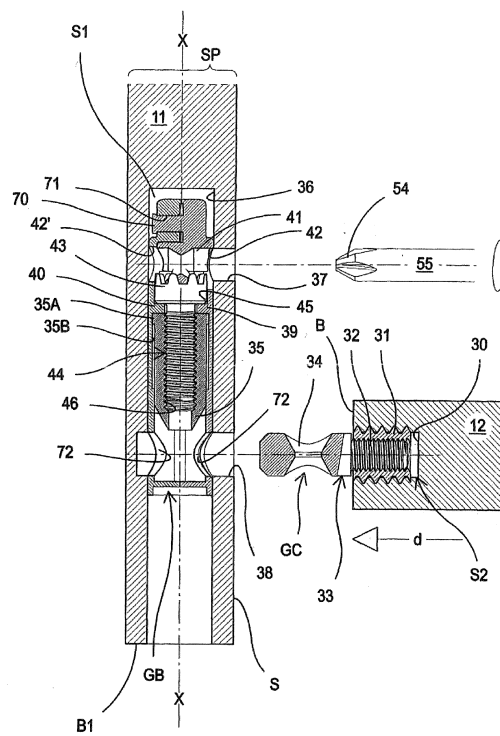
【図 2】



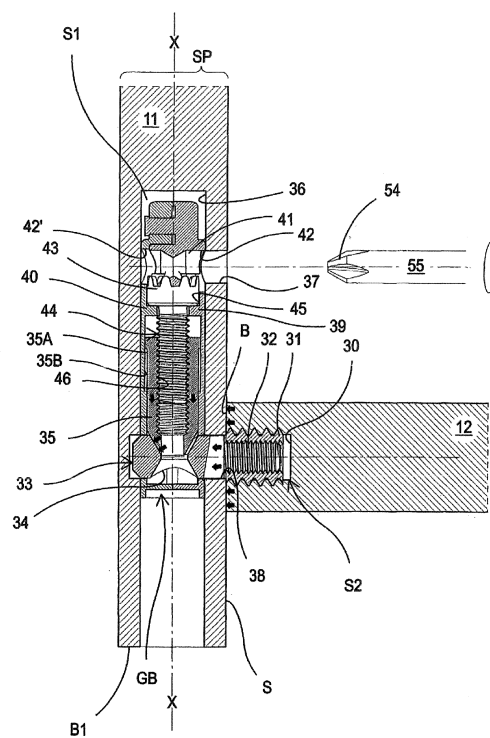
【図 3】



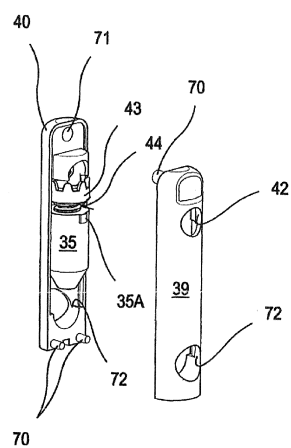
【図 4】



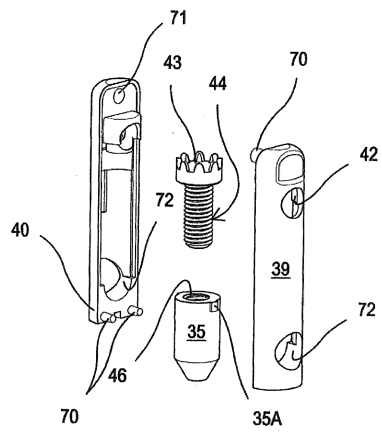
【 図 6 】



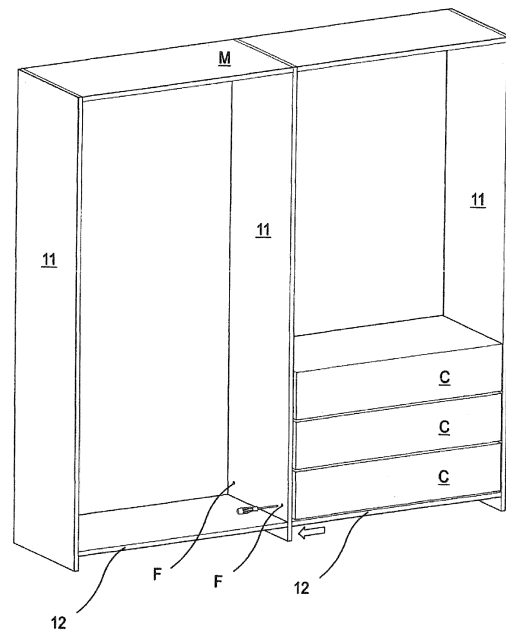
【圖 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平 07 - 2 1 3 3 5 1 (J P , A)
特開平 09 - 0 3 2 8 1 9 (J P , A)
米国特許出願公開第 2 0 0 4 / 0 2 0 8 6 9 0 (U S , A 1)
米国特許出願公開第 2 0 1 1 / 0 0 0 8 1 2 7 (U S , A 1)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

F 1 6 B	1 2 / 0 0 -	1 2 / 6 0
A 4 7 B	7 7 / 0 0 -	7 7 / 1 8 ,
	8 3 / 0 0 -	8 8 / 2 2